

19th Annual Congress of European College of Sport Science (ECSS Amsterdam 2014)

原村 未来*

はじめに

今回、平成26年7月2日～平成26年7月5日の日程で、オランダ・アムステルダムにて開催された19th annual Congress of the European College of Sport Science（第19回ヨーロッパスポーツ科学学会：以下、ECSS）に参加し、これまで行ってきた研究成果の一部を発表する機会を頂いた。学会大会の様子および自身の発表内容についてここに報告する。

ECSS について

ECSS は、スポーツ科学分野の国際協力を推進するとともに、研究者間の交流を目的とした国際組織である。当学会は約2万名以上の会員を擁し、年に1回、学会会議を開催している。ヨーロッパを拠点とする学会であるにも関わらず、学会大会には、毎年アメリカ、アジア、オセアニアなど世界中から、スポーツ科学領域の研究者が集まり、研究成果の発表および討論が盛んに行われている。今回参加した、第19回ヨーロッパスポー

ツ科学学会においても、75か国から約3000名の参加があり、学会会場はスポーツ科学を研究領域とする研究者や学生をはじめ、運動指導および実践者等の参加者で非常に盛況であった。

学会大会は、一般発表を含む4つのセッションで進行された。著名な研究者による「Plenary session」, 「Oral & Invited presentation」などの講演・シンポジウムや、「Mini-Oral Presentation」, 「E-Poster」の一般発表が、朝8:30～夜19:30まで行われていた。いずれの研究内容も興味深いものが多く、自身の研究分野以外にも、さまざまな分野のプレゼンテーションを聞きに行った。また、日本国内の研究者・大学院生も多く参加しており、研究に関する話はもちろんのこと、語学力の向上に対する取り組みなども情報交換することができ、非常に実り多いものであった。



学会会場の様子（Amsterdam RAI）



発表会場の様子

研究発表について

学会大会1日目の7月2日、E-poster sessionで自身の研究発表を行った。設置されているPCで検索できるようになっており、ポスターは電子掲

* 鹿屋体育大学 大学院 博士後期課程1年

示という形式であった。今回の発表研究課題は「Lactate threshold in squat exercise with incremental resistance」であり、「スクワットエクササイズ中の乳酸性作業閾値 (LT)」について検討したものである。レジスタンストレーニング中のLTに関しては、ほとんど明らかにされておらず、有酸素性および無酸素性の両能力を改善するトレーニングプログラムを作成するための、運動強度の策定を目的として研究を行った。今回の発表を通して、自身の研究内容の位置づけや研究データの有用性を再確認することができ、非常に有意義な時間を過ごすことができた。今後、現在行っている追加実験のデータと合わせて、本研究の内容を論文としてまとめ、国際誌に投稿する予定である。

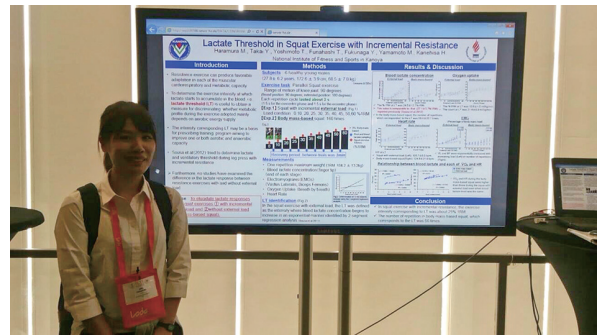
学会初日は、英語を聞き取ることで精一杯で、内容を理解するまでに時間がかかった。早く英語に慣れたいと思い、学会以外の日常的な場面でも、積極的に英語で会話し、聞き取り理解するよう努めて毎日を過ごした。そうすることで、日を重ねるごとに、会話の内容を聞き取り、理解するということが少しずつできるようになった。

今後、研究者を目指すうえで英語力を向上させ、国際学会に積極的に参加し、自身の研究能力を成長させていきたいと考えている。

おわりに

今回、海外での学会は初めてであり、当初は大きな不安も感じていたが、学会を通して多くのことを学び、今後の研究活動にとって非常に有益な経験となった。今後、国際学会等で自身の研究成果を発信するためにも、英語コミュニケーション力の重要性を改めて再認識した。今回はポスターの電子掲示であったが、次回は口頭発表を行い、更なるステップアップを図りたい。

最後に、本学会大会への参加・発表を行うにあたり、ご理解と多大なるご支援をいただきました金久博昭教授、高井洋平講師および共同研究者の皆様、本学職員の皆様に感謝の意を表します。



E-Poster 電子掲示の様子